

川之江城

《川之江城と土肥義昌》



《川之江城》



《川之江城天守閣》

- 1337年 伊予の河野氏の命により土肥義昌が鷲尾山に川之江城を築く。
- 1342年 細川頼春の進入により土肥義昌破れる。
- 土肥義昌の死後、河野氏と細川氏が川之江城をめぐる争いが繰り返されそのたびに城主が変わる。次に川之江市誌に城主として名が見られるのが細川通薫である。1536年から1559年まで城主であったらしい。
- 1571年 妻鳥采女正友春（めんどりうねめしょうともはる）が川之江城入る。
- 16世紀後半 川上但馬守が河野氏の命で妻鳥氏を打ち滅ぼし城主となる。
- 1585年 土佐方の武将が川之江城を攻め、川上但馬守をうち破り、妻鳥采女が帰城する。
- 1585年 豊臣秀吉が土佐の長宗部元親を打つために東予地方に攻め入り、川之江城は吉川元長の手に落ちる。
- 1586年 秀吉の四国平定後、伊予は小早川隆景が治めることになり、川之江城は廃城となる。

川之江城を築城した土肥義昌の墓所は、城山南山麓の一番高い所にある。



《土肥義昌墓所》

《姫ヶ嶽と与謝野晶子》



《姫ヶ嶽》



《与謝野晶子歌碑》

川之江城の駐車場

1586年、川之江城主であった河上但馬守が三島宮詣での帰り、三島の村松で討たれ、川之江城は大西備中守に攻められ落城した。父親の死を知った、娘の年姫は、城山のこの地より、海に身を投じて自害したと云う。その地が、姫ヶ嶽として、今も伝えられている。

姫ヶ嶽と道を挟んで山側に与謝野晶子の句碑がある。

「姫ヶ嶽 海に身投ぐる いや果ても うまして入りぬ 大名の娘は」